

高齢化社会における若者活躍の可能性

同志社大学 政策学部

武蔵勝宏ゼミナール

代表者 武智南帆

発表・参加者 武智南帆/竹本瑛美里/寺田れい/富永優香/中川敬貴

【概要】

少子高齢化が進む現代の日本では、若者流出率の増加による地方の過疎化や、地域に密着した中小企業の新卒雇用の人手不足など様々な問題が存在する。過疎地域といわれるような土地に暮らす高齢者に至っては病院や買い物へ行く手段が著しく制限され、必要最低限のことであってもタクシーを利用しなければならないケースも多い。若者流出が止まらない地域では様々な問題が山積しているのだ。

社会問題をボランティア精神だけで解決していくことには限界がある。そこで私たちは、若者と高齢者、そして中小企業、この三つをつなぎ合わせ、それぞれに利点を発生させることが若者の活躍可能性を見出す突破口であると考えた。私たちはこの三者の間に「三方良し」の関係が成立するよう構築した。

私たちは若者の中でも大学生にターゲットを向けた。若者の社会進出のために提案するのは、インターンシップを兼ねたイベント、『三方良しフェス』である。これは高齢者に対して催されるイベントで、全国の過疎地域の公民館などを利用して行う。このイベントの運営を担うのは各地域の中小企業と大学生である。若者はこのイベントに参加することで、共産している中小企業のインターンシップ生として高齢者をもてなすことができる。また、高齢者と接する場を設けることで、高齢者が長年培ってきた生活の知恵を学ぶ機会を得ることができる。

『三方良しフェス』は、高齢者にとって孤独を埋める交流の場としての精神面と、医療サービスの身体面での支えとなる。企業にとっては宣伝やイメージアップの機会、そして学生に対するインターンシップも兼ねることで雇用機会を得ることができる。若者にとっては中小企業を知る機会に加え、インターンシップとして参加することができ、また幅広い年代の人々との交流の機会も得られるのだ。よって若者はもちろんのこと高齢者や企業にも利益があることが分かる。『三方良しフェス』を実現することで将来に不安を抱える若者達の確かな人生経験となり、これからの社会を担う彼らの手助けとなるだろう。

【現状】

世界有数の長寿大国である日本。現在私たちは少子高齢化という社会問題を抱え、高齢者にとっては手厚い医療制度や年金制度が構築された社会の中で生活している。2025年には団塊世代が75歳以上の後期高齢者になり、さらに高齢化に拍車がかかるといわれている。選挙においても若年層より高齢者へ向けた政策が数多く見受けられることが現状となっており、若者の活躍可能性において高齢化社会は切っても切り離せないものであると認識せざるを得ない課題である。また、若者流出率の増加により地方の過疎化は急速に進み地域に密着した中小・零細企業は新卒雇用に苦しんでいる。UターンやIターン、Jターンといった就職は若者の地方流出を食い止めるために様々な場で目にするようになってきたものの、いまだ人材不足で頭を悩ませている企業は多い。過疎地域といわれるような土地に暮らす高齢者に至っては病院や買い物へ行く手段が著しく制限され、訪問診療の及ぶ範囲ではない地域も存在しているのが少子高齢化社会の過酷な現実である。例を挙げると「歯科治療」に関してなどが挙げられる。訪問診療において医師が訪れることができる範囲は法律によって定められており医院の所在地から16キロ圏内に設定されている。高齢者の貧困が問題視されている中、治療や予防医療は後回しにされがちなものであり、先述した歯科治療を例とするならば入れ歯の噛み合わせが悪くても交通の便や費用の関係から放置する人々が多く、健康維持の阻害にも影響しているのである。問題は医療だけではない。衣服や食品を手に入れるという必要最低限のことであってもタクシーを利用しなければならない高齢者が存在するのも事実であり、このような地域においては他者との交流の場も少なく、「孤独死」という新たな問題も発生してくる。若者流出が止まらない地域では様々な問題が山積しているのである。就活生にとって売り手市場といわれる今、わざわざ地方に目を向ける必要はないと考えている学生も多いが、箱を開けてみれば新卒採用を積極的に行っているのは「中小・零細企業」であり、だれもが耳にしたことがあるような大企業ではないということをしつかりと念頭においておかなければならない。

社会問題をボランティア精神だけで解決していくことには限界がある。利益追求なしには持続可能な政策を打ち立てていくことはできないのである。そこで私たちは「若者」ないし「大学生」にフォーカスをあて、地方における若者の活躍可能性を追求することにした。つまり若者の需要と高齢者の需要をマッチングしようと考えたのである。現在、大学生のインターンシップ参加率は年々上昇している。実際に数字で見ると2015年卒生のインターンシップ参加率は文理総合で27.0%であったが、2016年には39.4%、2017年は42.9%、そして2018年卒生のインターンシップ参加率は53.5%と過去最高の数値をたたき出している。事実、私たちのゼミ内においてもインターンシップに参加していない人間はおらず、最低でも1社以上の企業に赴き大企業だけでなく中小・零細企業の職務体験へと長期休暇を利用して参加した。私たち大学生にとって就職活動は次のステージへ進むための大きなステップである。インターンシップを通じて企業とのコネクションを作ること、なによりも「経験価値」としてこれからの就活へ向けた業界の研究にも役立っているのである。では逆に企業側はなぜインターンシップを実施するのか。2018年の就職白書によれば25.2%の企業がインターンシップをそもそも採用目的として実施していると回答している。学生たちにとってこれがインターンシップへの参加が大きな意

味があり、若者の需要として取り上げることができると考えた。

以上のことを踏まえたうえで若者と高齢者、そして中小・零細企業、この三つをつなぎ合わせることが若者の活躍可能性を見出す突破口であるということを提唱したい。私たちはこのつなぎ合わせに「三方良し」の関係が成立するよう構築した。若者には企業経験を、企業には新卒確保及び、協賛によるPR可能性を、また高齢者にとっては交流の場及び買い物、健康促進の場を提供することである。

【取り組むべき施策】

私たちは若者の中でも大学生にターゲットを向け、若者の社会進出のために提案するのは、インターンシップを兼ねたイベント、『三方良しフェス』である。これは高齢者に対して催されるイベントで、歯磨き講習や血圧測定などの手軽な医療に触れる機会を設けるほか、訪問医療サービスの説明及び宣伝、英会話教室や料理教室などの習い事の提供、そして飲食スペースを設けるもので、全国の過疎地域の公民館などを利用して行う。そしてこのイベントの運営を担っているのが各地域の中小・零細企業と大学生である。このイベントは先述した通り、インターンシップも兼ねており、イベントに協賛している中小・零細企業のインターンシップ生として高齢者をもてなすことができる。また、若者は高齢者と接する場を設けることで、高齢者が長年培ってきた生活の知恵を学ぶ機会を得ることができるのである。このイベントにより私たちは高齢者、企業、そして若者の「三方良し」の関係が期待できると考えている。以下で彼らのメリットについて述べる。

【高齢者へのメリット】

この『三方良しフェス』において、高齢者に提供できる価値としては精神的健康と身体的健康の二点を挙げられる。

まず、精神的健康面では、若者とのイベントを通じたコミュニケーションによって、主に認知症等の精神疾患の予防を試みる。英国イースト・アングリア大学などの研究によると、家族や友人などとの良好な関係が認知症を予防することが明らかになり、2017年5月の『Journal of Alzheimer's Disease』で発表された。この研究は2002年～2003年の間に、認知症を発症していない5,475人の男性と4,580人の女性、合計10,055人を対象に、2年ごとに2014年まで、健康状態やライフスタイルの状況について調査を行った結果によるもので、調査結果を分析すると、配偶者やパートナー、子供、その他の直系家族との信頼できる、親しみやすく理解しやすい関係を持つことは、認知症の発症を17%も低下させていた。この結果から研究者らは、良好ではない家族関係や、社会的な孤立・孤独などが高齢者に大きなストレスをかけ、それが認知症のリスクを高めていることを言及しており、高齢者の認知症予防には、良好な家族関係や社会参加を維持するサポートが必要であることを指摘している。そこで、本イベントにおいて、若者と高齢者による英会話教室や料理教室などの習い事ブースを設置することによって、良好な人間関係を構築することで、高齢者の社会的な孤立を防ぐとともに、認知症の発生リスクを低下させることができると考えられる。

英会話教室では、学生等の若者が、高齢者に簡単な日常英語を教えることで、高齢者はもちろん、若者も自身の英語の理解を深めることができ、料理教室では、高齢者が若者に伝統料理などを教えるという、互いに教え教わるという構図をとることで、日常生活では、あまり接点を持たない若者と高齢者の相互コミュニケーション生まれる。さらに、料理教室で、健康に良いメニューを取り上げることは、身体的健康にもつながる。

次に、日本においては急激な少子高齢化が進んでおり、これに伴い国の社会保障費は年々上昇を続け、予算を圧迫している。中でも高齢化による国民医療費の増加は特に深刻であり、平成28年度の国民医療費は4兆2千364億4千万円にも昇る。こうした現状も踏まえ、本イベントにおける高齢者に対する身体的健康のアプローチとして、訪問医療サービスの説明会を行う。

次に、身体的側面について述べる。医療レベルの発展と高齢化によって、後期医療の現場は病院から自宅へとシフトし始めているが、日本の在宅医療の利用率は他の先進国に比べ低い水準にある。

そこで、本イベントにおいて、英会話教室や料理教室を開催するだけでなく、医療の知識も養う企画を行うことで高齢者の参加を促し、訪問医療サービスの説明会や、地域の保健・医療・福祉関係機関の在宅医療・地域包括ケアシステムの説明会を同時開催することで、地域における在宅医療の理解を深めるきっかけを作る。これにより、訪問医療サービスの普及を促進し、認知度を上昇させることができる。

【中小・零細企業へのメリット】

まずはとりまく現状について述べる。多くの若者が地元を離れて都心部へ流出してしまふことにより、地方の過疎化が深刻化している。第一次産業の衰退や過疎化は国家の問題として早急に取り組むべき課題であることは明白である。「過疎化」とは、コミュニティーの人口が減少したために一定の生活水準の維持ができなくなる状態が進行していることを指す。このような地域では高齢者の割合が高く、財政力に乏しい場合が多い。過疎化は、若者の第一次産業離れや東京一極集中による都心部への人口流出が原因の一つである。過疎化が進行している地域は全国の市町村の4割以上を占め、面積は国土の半分以上にも及ぶのである。

高度経済成長期からバブル期にかけて若者が都市部に流出し地方の過疎化が進んだ。地方における企業や商業施設などは営業を続けることが困難となり、更に若者は都市部に流出せざるを得ないという負のスパイラルを生んだ。第一次産業に従事する人の数は、高度経済成長期以降に激減した。そのほとんどが高齢者であり、地方から若者が流出してだけでなく、地方に残っている若者ですら第一次産業に従事しない傾向にあり、これから人口は更に減少していくと考えられる。

過疎化・若者流出に対して現時点で行われている取り組みとしては、昨今危機感を感じている地方自治体がそれぞれの対策を考え実行に移し始めた。若者の流出を防ぐ様々な取り組みも行われている。行き過ぎた人口流出は過疎地域を生み出し、住民の生活環境がさらに悪化する事で今後ますます住みづらくなってしまうことが考えられる。さらに、過疎地域において空き家や空き地が増加することで治安が悪化する恐れがある。そういった

空き家にIターンやJターン、Uターンで訪れた若者達を誘致し、根付いてもらうことでその土地に住む人々の消費活動が活発になり、また、地域全体も再び活気を取り戻すことで経済が活発化するのとはとても重要な流れであると言える。また、中小・零細企業を守るために若者をその土地にとどまらせる努力は大切である。そこで、地方で学び地方で働く若者を確保することを考えなければならない。

地方からの人口流出は、大学等進学時と大学等卒業後最初の就職時という2つの時点において顕著である。特に大学等卒業後の地方定住を促進するためには、在学中から授業等を通じて地域との関わりを深める取り組みや、大学等の卒業生が地方に定住して働く雇用を創出する必要がある。実際に行われている施策としては、国を挙げて「人口減少克服・地方創生」という課題に取り組んでおり、全国各地の大学が地方公共団体や地元企業などと連携した「地方への新しいひとの流れをつくる」「地方に仕事をつくる」といった取り組みを実施することが期待されている。

大企業の雇用環境が好調な一方で、地方の中小・零細企業の人手不足は深刻さを増している。少子高齢化が進展する中で、その厳しさは今後も増すとの見方が多い。人材確保のため、中小・零細企業は生き残りをかけてありとあらゆる手段を考え時代の流れに対応していく必要がある。「アベノミクスで大企業の収益が拡大するのに比例して中小・企業の採用は厳しさを増す」とこの言葉は如実に現状を端的に表している。大企業への就職志向が強くなればなるほど、中小・零細企業は人手不足に追い込まれるのが現実だ。こうした中、中小・零細企業の各社は人材確保のためさまざまな対策に乗り出している。一例として、産学連携とインターンシップ（就業体験）で成果をあげたり「いかに働きやすい環境をつくるか」を重視する事により雇用を確保しようと努めたりしている。今後、一段の人手不足が予想される中、中小・零細企業は対応策を迫られることになる。一方で、政府は大企業と中小・零細企業の人材の偏在を解消するにはどうするか等の課題が浮かび上がってくる。

次に、『三方良しフェス』を協賛することによって得られる中小・零細企業のメリットについて述べる。今回私達が企画した『三方良しフェス』は、ただ高齢者の福祉のためだけでなく、その地方に根付く企業の発展にとって有益な繋がりをもたらすものとして位置づけている。加えて、インターンシップとして若者の中小・零細企業への雇用可能性も見込めると考えている。そして、中小・零細企業の利点は大きく2点挙げられる。1点目は雇用難を抱える中小・零細企業が地元で働きたいと考える学生と関わる機会を設けられる点である。中小・零細企業にとっては、実際に高齢者のために自社特有の仕事をする事で大学生に興味を持ってもらうことができ、企業と大学生が共にフェスを作り上げる過程で学生ひとりひとりの個性や能力を間近に判断しながら自社に必要な人材を見つける事が可能となる。2点目は過疎地の高齢者にターゲットを絞った的確な戦略を展開することが可能な点である。日常生活において比較的行動範囲が狭いと考えられる高齢者が非日常的な『三方良しフェス』に参加することにより、高揚した気分の中での消費意欲の増幅を狙うことが出来る。また、「三方良しフェスに参加してくれた」というような企業のイメージアップにも繋がり、これは企業の宣伝となり、新規顧客の獲得が出来るはずだ。

若者の地域活躍を最たる目的としながら、地元企業と大学生がそれぞれの未来を見つけ歩き出すきっかけの場を作るのである。

【若者へのメリット】

この政策は、若者、企業、そして高齢者の三方全てにメリットがある。若者というくくりの中から学生に着目し、まずは学生側から見た際のメリットなどを紹介する。

今回提案している『三方良しフェス』において、私たちは過疎化や高齢化が進む地域と中小・零細企業が提携をして学生を呼び込んでインターンのように様々な経験ができる形を推進している。文部科学省の大学生数の統計によると、平成28年の時点で約140万人もの学生が存在しており、そのうちの約7割弱が大学卒業後に就職をしている。就職先は大企業から中小・零細企業など様々な規模であるが、日本では企業の約99%を中小・零細企業が占めているという(中小企業法における定義に基づく)。大企業は名前のブランド力や福利厚生が整っているなどメリットはたくさんあるが、就職を望むとなると狭き門ではないだろうか。対して、中小・零細企業では比較的狭いコミュニケーションの中で個人の裁量が重視されており、企業の99%を占めているということは、日本の産業や経済を支えていると言っても過言ではないだろう。「中小・零細企業」というだけでどこかマイナーなイメージが付きがちかもしれないが、そのイメージを払拭することや、学生に対して就職の視野を広げてもらう機会を作るためにも、この政策は敢えて中小・零細企業に着目している。学生は地域と中小・零細企業が提携して行われる『三方良しフェス』に参加することによって、様々な体験ができるようにする。

例えば、実際に似たような「ミライ企業プロジェクト」というプロジェクトがある。中心人物である佐々木研さんは、中小・零細企業と学生をマッチングさせる場を作っている人物である。佐々木さんの行う事業を大きく3つに分けると、1つ目は冊子やサイトで学生に中小・零細企業を知ってもらう情報提供をすること、2つ目は学生が「ミライ企業」でインターンシップを行うこと、そして3つ目は学生と企業における採用のマッチングづくりである。参加した学生からは、「中小・零細企業に対するイメージが変わった」などポジティブな声があがり、活動規模も関西や広島、沖縄など様々な地域に事務局が存在し、大学に対しても情報提供をしているという。

今回、わたしたちの提案している政策と中心的な考えは同じであるが、この考えにさらに高齢者などの福祉問題を絡めている点で少し違ったものであることを強調したい。

この政策を通して若者の一番のメリットとなるものは、中小・零細企業との出会いの場があることやそれを通じてインターンが設けられていることである。過疎の進行化や、高齢者が多い地域で『三方良しフェス』を行うことは学生の都会流出の阻止や、Uターンなどを生み出す可能性も持っている。高齢者が若者の参加するインターンによって助けられ、交流が出来る場を作ることは双方にメリットがある。また、その下支えする企業にとっても人材確保の場が生まれる。どの立場をとってもメリットが生まれる政策が『三方良しフェス』である。大勢の学生が給与やネームバリューなどに惹かれて大企業思考になってしまうことは否めないが、同時に学生が中小・零細企業をしっかりと理解していないのではないか、という問題提起も出来る。中小企業に対するネガティブな思考をなくすためにも、まずは学生が中小・零細企業とはどのようなものであるのかということを知るきつ

かけ作りも大切なのではないだろうか。その理解の上で様々な地域が中小・零細企業と提携しインターンを開くことで若者の活動範囲も広がり、インターンを通して出会った学生と企業がマッチングをすることで就職先を見つけることはお互い大きなメリットとなる。学生にとって就職活動は学生生活から社会に出るための1つの大きな行動であるが、就職活動に費やされる時間や手間は人それぞれであるとはいえ、トントン拍子で進むものではないと言えるだろう。就職活動に躓く原因が偏った知識のせいで大企業ばかりに着目しているならば、この政策はその問題解決のための鍵となり、就職活動が少しでも楽になる手助けにもなる。

高齢化が進んでいる現在の日本で、若者が社会で広く活躍する必要性は言うまでもないが、その活動範囲を広げるといっても数多く存在する中小・零細企業や各地で地域性を持つ企業と出会うことは重要であると考えられる。高齢者ばかりの地域に若者が進出することで継続される事業がある可能性は大いにあるだろう。次世代の担い手である若者が大企業に囚われて自ら就職先を絞ってしまう前に、このような政策を用いて中小・零細企業の魅力を伝えていくこと、またその機会作りが大切である。そして、若者にとって多世代交流の場として高齢者が長年培ってきた生活の知恵など、新たな知見を得ることができるのである。これによって助けられる高齢者が増えることで、学生高齢者の間にもウィンウィンの関係が生まれることになる。

上記をまとめると、学生にとって『三方良しフェス』に参加することは中小・零細企業を理解するきっかけの場になることにとどまらず、その先に企業とマッチングをして就職の可能性をも生み出してくれる場所でもある。それと同時に高齢者は若者に助けられ、交流する場もできるという新たな側面も誕生させていることが言える。

【まとめ】

以上より、『三方良しフェス』は、高齢者の孤独を埋める交流の場としてのソフト面と、医療サービスなどのハード面での支えとなる。企業にとっては宣伝やイメージアップの機会、そして学生に対するインターンシップも兼ねることができる。若者にとっては中小・零細企業を知る機会に加え、インターンシップとして参加することができ、また幅広い年代の人々との交流の機会も得られるのだ。よって若者はもちろんのこと高齢者や企業にも利益があることが分かる。『三方良しフェス』を実現することで将来に不安を抱える若者達の確かな人生経験となり、これからの社会を担う彼らの手助けとなるだろう。

《参考文献》

Mizanur Khondoker, Snorri Bjorn Rafnsson, Stephen Morris, Martin Orrell, Andrew Steptoe. Positive and Negative Experiences of Social Support and Risk of Dementia in Later Life: An Investigation Using the English Longitudinal Study of Ageing. Journal of Alzheimer's Disease, 2017; 58 (1): 99 DOI: 10.3233/JAD-161160 <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC5438469/>

平成28年度医療費動向 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000177607.pdf>

平成27年国民医療費の概況 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/15/index.html>

患者のための薬局ビジョン 参考資料 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11120000.../sankou_4.pdf

平成19年度老人保健事業推進費等補助金「後期高齢者の服薬における問題と薬剤師の在宅患者訪問薬剤管理指導ならびに居宅療養管理指導の効果に関する調査研究」

平成26年度 老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業 「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師による薬学的管理及び在宅服薬支援の向上及び効率化のための調査研究事業」報告書 みずほ情報総研 https://www.mizuho-ir.co.jp/case/research/pdf/mhlw_kaigo2015_05.pdf

統計 <http://www.stat.go.jp/data/nihon/25.html>

ミライ企業 <https://news.yahoo.co.jp/byline/suzukitakahiro/20160402-00056144/>

就職みらい研究所『就職白書2018』—インターンシップ編— 株式会社リクルートキャリア https://data.recruitcareer.co.jp/wp-content/uploads/2018/03/syuusei_hakusyo2018internship.pdf

まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017改訂版） <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/honbukaigou/h29-12-22-shiryoul.pdf>

日刊工業新聞 2017/6/8 <https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00431213>

土地総合研究 2018年冬号
人口減少と東京一極集中 http://www.lij.jp/html/jli/jli_2018/2018winter_p119.pdf